

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地					
専門学校 関東工業自動車 大学校	昭和54年3月31日	中川 裕之	〒 365-0059 (住所) 埼玉県鴻巣市糠田2618-8 (電話) 048-596-3555					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地					
学校法人 正興学園	昭和54年3月31日	中川 裕之	〒 365-0059 (住所) 埼玉県鴻巣市糠田2618-8 (電話) 048-596-3555					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
工業	工業専門課程	二級自動車整備科	平成27(2015)年度	-	平成27(2015)年度			
学科の目的	本校は学校教育法及び私立学校法の規定に基づき、自動車整備に関する専門的技術及び理論を習得させ、整備士として社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	国家二級自動車整備士資格、その他在学中に取得できる資格は、ガス溶接技能講習修了資格、アーク溶接特別教育修了資格、フォークリフト運転技能講習修了資格、危険物取扱者乙種第四類資格等がある。							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,200 単位時間	784 単位時間	単位時間	1,416 単位時間	単位時間	単位時間
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率				
320 人	238 人	109 人	0 %	11 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		29	人				
	■就職希望者数(D)		15	人				
	■就職者数(E)		15	人				
	■地元就職者数(F)		1	人				
	■就職率(E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		93	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		58	%				
	■進学者数		14	人				
	■その他							
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有る場合、例えば以下について任意記載		無					
	評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載した ホームページURL					
当該学科の ホームページ URL	https://kanto-koudai.com/course-info/secondclass/							
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれかに 記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		2,200 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		36 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間					
	うち必修授業時数		2,200 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		36 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		36 単位時間					
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数		〇〇 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		〇〇 単位						
うち必修単位数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		〇〇 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		〇〇 単位						
教員の属性(専任 教員について記 入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		20 人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		5 人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		9 人					
	計		34 人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		27 人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

自動車産業を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、自動車整備士に求められる知識、技術及び人間性に等においても多様化している。その為に就職先企業及び本校後援会企業を軸とした連携をすることにより実践力を養うことを基本に展開を図る。また、職業学校としての使命の中で就業に耐えうる人材育成と就業先の確保があり、この面からも企業との連携体制を

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業・業界団体などの外部委員と関東工業自動車大学校職員にて構成している。

教育課程編成委員会は教務部長のもとに設置し、教務部マネージャを軸に委員会において教育内容について積極的に検討・改善を実施し、教頭の許可を経て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
泰楽 秀一	埼玉県自動車車体整備協同組合	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
鈴木 浩和	株式会社スズキトラスト	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
関口 秀生	有限会社関口工業所	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
加瀬 正樹	教頭	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
青木 隆正	教務部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
小川 淳	教務マネージャ	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
二ノ宮 昌樹	教務マネージャ	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年6月12日 11:00～12:00

第2回 令和6年2月5日 11:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

お客様とtの対応力の向上や診断機の活用についての要望を頂いたことから、カリキュラムを改訂し今まで以上に授業に反映させていく。また連携授業の内容も再検討していく。

電気自動車の基礎学習を二級課程に導入していく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

日々変化している企業ニーズや自動車新技術、それに伴う自動車整備技術に対応すべく、企業の持っている情報、要領を中心に実物やデータを企業様からご教授頂きながら習得する。特に今後の電気自動車等の普及を踏まえ、電気自動車の基礎学習や外部診断機の活用などをカリキュラムに反映させていく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会において決定された内容の基つき、現在求められる専門知識・専門技術等において各企業の担当者と教科担当者を含め、授業の進め方・評価方法について事前に打合せを実施。

本校後援会企業・就職内定先企業と連携し、校外研修を実施する。研修後に学生が提出する研修報告書に基づき評価を行なう。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
校外研修	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	就職内定先企業及び後援会企業 におけるの自動車整備の実務作業	就職内定先企業及び後援会企業 埼玉トヨタ自動車株式会社、埼玉 日産自動車株式会社、埼玉ダイハツ 販売株式会社 他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

就業規則第5条に基づき、企業連携研修を積極的に受講させることで、学生に対する指導力及び知識力の向上を図ることを基本方針とする。

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

就業規則第5条に基づき、企業連携研修を積極的に受講させることで、学生に対する指導力及び知識力の向上を図ることを基本方針とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	日産技術セミナー	連携企業等:	日産自動車株式会社
期間:	令和6年8月6日(火)	対象:	教員
内容:	電気自動車、自動運転についてメーカーの技術担当より学ぶ		

研修名:	新技術・車両診断研修会	連携企業等:	全国自動車大学校・整備専門学校協会
期間:	令和6年8月6日(火)～8月9日(金)	対象:	教員
内容:	HV車、EV車の制御機構とスキャンツールを使用した電子制御診断等		

研修名:	整備主任者講習	連携企業等:	埼玉県自動車整備振興会
期間:	令和6年10月10日(木)	対象:	整備主任者
内容:	自動車関連連法令講習		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専修学校教員研修会	連携企業等:	埼玉県専修学校・各種学校協会
期間:	令和6年6月29日(土)、7月13日(土)、27日(土)	対象:	教員
内容:	教育原理・教育知識・学生コミュニケーション技法		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	SUBARU技術研修会	連携企業等:	埼玉スバル株式会社
期間:	令和7年8月6日(水)	対象:	教員
内容	SUBARUのAWD開発について		
研修名:	新技術・車両診断研修会	連携企業等:	全国自動車大学校・整備専門学校協会
期間:	令和7年8月5日(火)～8月8日(金)	対象:	教員
内容	HV車、EV車の制御機構とスキャンツールを使用した電子制御診断等		
研修名:	先進運転支援システム研修会	連携企業等:	ボッシュ株式会社
期間:	令和7年8月6日(水)	対象:	教員
内容	エーミング調整研修会		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	専修学校教員研修会	連携企業等:	埼玉県専修学校・各種学校協会
期間:	令和7年6月28日(土)、7月12日(土)、26日(土)	対象:	教員
内容	教育原理・教育知識・学生コミュニケーション技法		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者(自動車業界関係者、保護者、卒業生、地域住民)による学校評価を実施し、保護者、地域住民等に理解・信頼されるよう努めるとともに、より良い学校創りのために学校経営の改善、促進に寄与することを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 ・学校における職業教育の特色は何か。 ・各科の教育目標、育成人材像は企業ニーズに向けて方向づけられているか。
(2)学校運営	・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。 ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。
(3)教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針が等が策定できているか。 ・学科・実習等のカリキュラムは体系的に編成されているか。 ・実践的な職業教育(インターンシップ等)が体系的に位置づけられているか。 ・成績評価、進級・卒業判定基準は明確になっているか。 ・職員の能力向上のための研修等が行われているか。
(4)学修成果	・就職率の向上は図れているか。 ・資格取得率の向上が図れているか。 ・退学率の低減が図れているか。 ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5)学生支援	・進路・就職に対する支援体制は整備されているか。 ・学生相談に関する体制は整備されているか。 ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。 ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ・保護者と適切に連携しているか。 ・中・高校と連携したキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。
(6)教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。 ・防災に対する体制は整備されているか。
(7)学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか。 ・学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか。 ・学納金は妥当なものとなっているか。
(8)財務	・予算収支計画は妥当なものとなっているか。 ・中・長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。
(9)法令等の遵守	・法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ・個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか。 ・自己評価の実施と問題点の改善を行なっているか。
(10)社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか。 ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。 ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託を積極的に実施しているか。
(11)国際交流	・留学生の受入・派遣について戦力をもって行っているか。 ・留学生の受入・派遣、在籍管理等において適切な手続等がとられているか。 ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者の方々に各項目に意見・提案(下記抜粋)をもとに翌年度の学校運営に反映させている。

- ・教育環境について・実習等の設備・教材車両などの充実。
- ・教育活動について・後援会企業の連携授業の教科(内容・回数)
- ・学生募集について・恒常的な学生数確保は学校運営の根幹となるので、常に力を入れるべき。
留学生の受入れ学生レベルの検討。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
泰 楽 秀一	埼玉県自動車車体整備協同組合	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	協会
鈴木 浩和	株式会社スズキトラスト	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業
関口 秀生	有限会社関口工業所	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生
関根 哲男	寮主	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	地域

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kanto-koudai.com/school/#information>

公表時期: 令和7年7月2日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学生に対し、より良い教育活動等が享受できるような学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の向上と補償を図るために、学校として教育活動やその他学校運営について情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の運営方針
(2)各学科等の教育	学科紹介、授業計画、シラバス
(3)教職員	教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職実績・資格取得、学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	年間イベント、教育環境
(6)学生の生活支援	学修成果
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・奨学金
(8)学校の財務	財務諸表
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://kanto-koudai.com/school/#information>

公表時期: 令和7年7月2日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			原動機構造	原動機の原理と性能、各装置の構造、作動、点検、整備について知識を習得する	1通	##		○			○		○		○
2	○			シャシ構造	シャシ各装置の種類・構造・作動を習得する	1通	50		○			○		○		○
3	○			電装品構造	電装品の種類・構造・作動を習得する	1 ② ③	50		○			○		○		○
4	○			電子制御装置	先進安全技術、電子制御装置の原理、構造、機能、作動、点検、整備	1 ③	21		○			○		○		○
5	○			電気磁気電子理論	電気の基礎、磁気の基礎、電子理論を習得する	1 ①	34		○			○		○		
6	○			自動車工学	自動車に関連する各種計算方法を習得する	2年間	82		○			○		○		
7	○			燃料・潤滑剤	燃料の種類・特性を習得する 油脂類の種類・特性を習得する	2 ① ②	32		○			○		○		
8	○			自動車材料	自動車に使用される材料の種類・特性を習得する	1 ①	25		○			○		○		
9	○			図面	製図の種類、規則などを習得する	2 ② ③	50		○			○		○		
10	○			ガソリンエンジン整備法	ガソリンエンジンの整備・点検基準等の習得	2通	31		○			○		○		
11	○			シャシ整備法	シャシ各種装置の整備・点検基準等の習得	2通	31		○			○		○		
12	○			電装品整備法	エンジンおよびシャシ電装品の整備・点検基準等の習得	2通	31		○			○		○		
13	○			ディーゼルエンジン整備法	ディーゼルエンジンの整備・点検基準等の習得	2通	31		○			○		○		
14	○			コンプライアンス	法的リスクの低減、倫理的行動の促進、透明性の向上、お客様に対し信頼構築の向上	1 ①	25		○			○		○		
15	○			故障探究	各種故障探究の考え方及び代表的な事例を習得する	2 ③	##		○			○		○		
16	○			機器取扱	整備機器及び検査機器の種類使用方法の習得	2 ② ③	20		○			○		○		

17	○		自動車検査	保安基準及び検査基準の習得	2 通	26		○		○	○		
18	○		自動車関係法令	自動車整備業の関係法令の習得	1 ② ③	24		○		○	○		
19	○		職場教養	職場での一般的ルール・マナーの習得	1 ①	6		○		○	○	○	
20	○		職場教養	接客スキルの習得（CS及びソーシャル）	2 ①	12		○		○	○		
21	○		校外研修	企業へ出向き実社会を体験する （インターンシップ）	2 ②	36		△	○	○		○	
22	○		エンジン本体	エンジン各部の研究	1 ①	7			○	○	○		
23	○		駆動・制動・走行	ジャッキアップ、タイヤローテーション	1 ①	3			○	○	○		
24	○		車両取扱い	日常点検、エンジン始動方法の習得	1 ①	3			○	○	○		
25	○		電気装置	電気装置各部名称・役目	1 ①	3			○	○	○		
26	○		ブレーキ①	ブレーキ装置の研究、ドラムブレーキの分解・研究・組付け・調整 エア抜き作業、フルードの取扱	1 ①	36			○	○	○		
27	○		エンジン及びモータ	ガソリンエンジン分解・研究・組立	1 ①	39			○	○	○		
28	○		多頻度作業	車載式交差診断装置概要、外部診断機の活用 内装部品、電装品の脱着作業	1 ①	39			○	○	○		
29	○		エンジン本体	エンジン（シリンダヘッド）分解・組立 潤滑・冷却装置	1 ① ②	36			○	○	○		
30	○		クラッチ・トランスミッション	クラッチの脱着・研究動力伝達機構の研究 T/M・T/A構造作動、シンクロメッシュ機構	1 ① ②	36			○	○	○		
31	○		電気基礎	サーキットテスト作成、電気回路の点検作業 バッテリーの取扱、充電器の取扱	1 ①	36			○	○	○		
32	○		ディーゼルエンジン	ディーゼルエンジン分解・研究・測定・組立 ガソリンとの比較研究 噴射ノズル分解・研究・組立・調整	1 ① ②	36			○	○	○		
33	○		ブレーキ②	マスタリンガ分解・研究・組立 ブースタ分解・研究・組立 ディスクブレーキ分解・研究・組立	1 ① ②	36			○	○	○		
34	○		ステアリング	ステアリング分解・研究・組立・調整 単体および車上点検作業	1 ②	36			○	○	○		
35	○		T/M脱着	T/A分解・研究・組立、T/M脱着作業 ドライブシャフト脱着・ブーツ交換	1 ②	39			○	○	○		

36	○		電子制御 燃料噴射①	電子制御燃料噴射装置 各系統別作動	1 ②	39				○	○	○		
37	○		始動装置	始動装置の分解・研究・組立 単体および車上点検作業	1 ②	36				○	○	○		
38	○		サスペンション	サスペンションの脱着作業、各部点検	1 ②	36				○	○	○		
39	○		電子制御 燃料噴射②	電子制御燃料噴射装置 各系統別点検	1 ②	39				○	○	○		
40	○		点火装置	点火装置の各装置研究、回路作成 単体および車上点検作業	1 ②	36				○	○	○		
41	○		定期点検①	定期点検作業及びワイパの脱着・研究	1 ②	36				○	○	○		
42	○		二輪	二輪総合整備・調整作業 二輪点検整備作業	1 ③	39				○	○	○		
43	○		充電装置	オルタネータの構造作動研究 単体および車上点検作業	1 ③	36				○	○	○		
44	○		定期点検②	定期点検作業、灯火回路の点検作業	1 ③	36				○	○	○		
45	○		デフレンジヤル	デフレンジヤルの分解研究組付け 脱着作業及び各部点検作業	1 ③	36				○	○	○		
46	○		車検①	車検作業実務	2 ①	39				○	○	○		
47	○		A/T①	A/T脱着、概要・構成 車上点検	2 ①	36				○	○	○		
48	○		エアブレーキ	エアブレーキの構造作動、各機能点検	2 ①	36				○	○	○		
49	○		オシロスコープ	オシロスコープ 取扱、各波形の読み取り、判断	2 ①	39				○	○	○		
50	○		パワーステアリング	パワーステアリングの構造作動、脱着作業 単体および車上点検	2 ①	39				○	○	○		
51	○		電気装置総合	E/G電装品復習 バッテリ比重測定 トラブルシュート 予熱装置の名称、構造、作動	2 ①	36				○	○	○		
52	○		シリンダヘッド	シリンダヘッド脱着、ヘッドO/H エンジン本体故障探究	2 ①	43				○	○	○		
53	○		G/E故障探究	EFI故障探究、オシロスコープ、ダイアグノシス、外部 診断機の取扱	2 ①	39				○	○	○		
54	○		車検②	車検作業の実務、検査機器取扱、車検ライン A/Cの名称、構造、作動	2 ① ②	39				○	○	○		

55	○	ジ・セ・ルエンジン	分配型I/Pの噴射時期調整 コモンレール式高圧燃料噴射装置 ユニット・インジェクタ式高圧燃料噴射装置 タイミングベルト脱着	2 ① ②	43				○	○	○		
56	○	A/T②	A/Tの構造、作動、分解組立 基本点検、故障探求	2 ① ②	39				○	○	○		
57	○	HV & 燃料電池	低電圧取扱者講習 ハイブリッドシステム種類、特徴 燃料電池車	2 ① ②	39				○	○	○		
58	○	多頻度	内装部品の脱着作業 各種ランプ、バルブの交換作業 タイヤチェンジャー	2 ②	39				○	○	○		
59	○	性能	シフトイモ、燃費、性能曲線図	2 ②	36				○	○	○		
60	○	ABS・LSD	ABS構成、各装置の構造作動 LSDの分解組立、構造作動	2 ②	36				○	○	○		
61	○	CR・DE故障探 求	D/Eの故障探究	2 ② ③	43				○	○	○		
62	○	ホイールアライメント	ターニングラジアスゲージ、CCKゲージ、4輪アライメント 各テストの取り扱い及び測定、修正	2 ② ③	39				○	○	○		
63	○	大型車	大型車のブレーキ分解・組立 エア・サス、インタ・アクスルD/F	2 ② ③	39				○	○	○		
合計		63 科目			2290 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 全科目が一定の基準に達し、出席率及び素行良好と認められ、卒業時において国土交通省の定める自動車整備士一級養成施設の教育時間数を満たした者		1 学年の学期区分	3 期
履修方法： 修了判定は全教科を必修として、各教科の履修時間が授業時数の100%であること。		1 学期の授業期間	17 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。